茨木市長選挙立候補にあたっての決意

茨木市議会議員 山下けいき

昨年の3月11日に起きた東日本大震災と福島第一原発事故は、改めて私たちが地震列島に生き、危険な原発と隣り合わせに住んでいることを突きつけました。同時に国や住民の生活に直結する自治体の役割は何なのかも大きく問うものでした。

私は「いのちが大事、くらしが大切」という立場から活動を続けてきました。市民の安心・安全のためには脱原発しかありません。放射能汚染が大きく広がるときに、その対応は最優先されなければなりません。これまで議員として脱原発を求めてきましたが、3・11以降も茨木市の対応が以前と変わらなかつたこと、これが私の決意を促すことになりました。

もう一つは橋下大阪市長率いる大阪維新の動きです。二大政党の自民党、民主党への失望感、格差と貧困の拡大がもたらした閉塞感が、威勢のいい橋下・維新への期待になっています。この時代風潮に乗じた橋下・維新は昨秋ダブル選挙に勝利し、その勢いに恐れをなした既成政党の多くが迎合に走っています。これがさらなる支持を呼び込み、今では総選挙での第一党を狙うまでになりました。しかしこの流れはファシズムそのものではないでしょうか。

橋下・維新の正体は独裁と強制であり、実質橋下個人の独裁です。その危険性は「君が代」強制条例、教育基本条例、職員基本条例からも明らかです。ここにあるのは主人公であるべき児童・生徒や主権者である国民を尊重の対象としてではなく、権力に従属するものとしてとらえる、時代に逆行する考えです。このような橋下・維新が大阪府民、茨木市民を不幸に追い込むことは2万%確実です。

国に対しては地方分権を口にしながら、府下自治体に対しては首長選での対立候補を匂わせて従属を求めています。大阪ダブル選挙以降、大阪都構想を批判し、疑問を口にする市長はまったく見られなくなりました。もはや府下の自治体首長すべてが橋下・維新の傘下に下る異様な状況になってはいないでしょうか。

今春の茨木市長選挙は、橋下・維新以外に立候補の動きは見られず、このままでは橋下直結の茨木市政になる。これはどうしても許せない、これが私の立候補の大きな理由です。

私は1953年生まれ、戦後の混乱期から落ち着きを取り戻し、貧しいながらも今日よりは明日、今年よりは来年と希望を持つことができた幸せな時代に生きてきました。

しかし今の次代を担う青少年をとりまいてるのは、就職難であり、格差と貧困、結婚と子育てにためらいを感じる社会です。高齢者も細る年金に医療と介護の負担が重くのしかかっています。

憲法の第25条には「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない」とあります。

私はこの25条をはじめ、何よりも平和憲法の理念を自治体の施策として具体化し、人間としての尊厳が保障され、自分らしく生きられる茨木をめざしていきます。

どうか私の決意をご理解いただきご支援を戴きますようよろしくお願いいたします。